

神楽

三重県神道青年会創立五十周年

伝えよう大和心

(写真撮影提供 篠原 龍氏)

三重県神道青年会報 第25号

五十周年は会員全員の力で

三重県神道青年会
会長 種村 睦



神道青年会の活動に、ご理解、ご協力を頂きます事を、心より御礼申し上げます。

早いもので、平成九年四月に会長に就任してより、二年が過ぎようとしております。

今期を振り返ってみれば、歴代会長の中で最も指導力の乏しい、大変頼り無い私が、無事大役を終える事ができますのも、役員諸氏の御尽力に依れる事と、深く感謝致します。

私も、神道青年会の活動に、参加させて頂くようになり、十四年があつという間に過ぎていき、卒業の歳となり、入会当時に先輩等

が年月の流れは、「歳をとるほどに加速していく」と言われた言葉が痛感できる今この頃に、今一度思い返してみれば、行事などの案内を、事務局より貰っても、出欠に戸惑い、また出席しようと思いついて行っても、なかなか敷居が高いような気がして、参加もしないで帰った事もありました。

しかし、ある先輩にお宮の子供会というサマーキャンプがあるから参加してみないかと誘われ、行ってみると、同じ世代の会員が、気楽に仲間に入れてくれ、神職としての友人も多数でき、行事に参加するようになり、コミュニケーションが持て、日々のご奉仕のアドバースをしても良かったり、疑問についても相談したり出来るようになり、県下地域によって違いが有るものの同じ悩みを持っている事が多く、神職として、まだ右も左も何も解らない、また、田舎の小さ

な氏神様に参加した事が大変勉強になり、日々の奉仕の知識を得る事ができた事が、有意義であったと思います。

現在会員数は一六三名と、全国的に見ても多数の会員数を有する会であるのに、行事に出ているだけの会員は、年々減少し、常時十五名前後と大変厳しい状況で会務を展開しております。

これも偏に会長の不徳の致すところと深く反省いたしておりますが、青年会として入会して二十年近くに一度も行事に参加されずに、



卒業していく方の多い事を、大変悲しく思います。

今年は、三重県神道青年会も五十周年と、会の歴史に刻む大きな記念の年を迎えており、「伝えよう大和心」とメインテーマを決めて、六月二十五日には記念式典を、八月には記念事業とし神宮に於いて、県下一般の方々まで広く募集をし、奉仕団を結成して古殿地の清掃奉仕をし、民族の心のふるさとである伊勢に集い、大和心を伝えるに最も相応しい、御遷宮に対して意識を高める啓蒙活動を予定しております。また会の歴史も、確実に伝えるべく、記念誌の発行など、少人数では、とても成し遂げる事ができない大行事ではないかと思っております。

会全体の力を総結集しなければ乗り越えて行けないのではないかと思っております。

此を機に、会員相互が、積極的に参加し、和を広く深く育んで行っていただければ幸いです。

二年間を振り返って

副会長 福田 和人
渉外・福祉委員会担当



平成九年四月、副会長に選出されて戴いてより、早や

二年の歳月が過ぎようとしております。種村会長を中心に少数精鋭で始めました青年会でありましたが、役員の方々を始め会員諸兄のなみなみならぬお力添えと御協力を賜り、無事務めさせていただきました事、先ず以って厚く御礼申し上げます。

この二年間、世の移り変わりは激しく、顧みれば、暗さは国内ばかりでなく、世界を包み込み、不景気や国際紛争のニュースが世界を覆う有様でした。この内外激動の時機にあたり、会の中核として、その責務を全うさせて戴きました事は、この上ない光栄と存じております。担当させて頂いた渉外福祉委員会では、実行力旺盛な山路委員長の働きにより会員相互の親



睦はより深く図られ、心の繋がりが、大きな和を広められたものと確信致しております。去る平成五年、増田会長時に理事に就任以来、六年目になりますが、この期は神青協総会を始め各行事、更には東海五県連絡協議会への出席と県内会員はもとより、全国の有志の方々との和を広げられ嬉しく存じております。特に平成十年六月には、

神青協海外宗教事情視察研修に参加、隣国、中華人民共和国、北京市を訪問、大学生との交流会、宗教関係者との座談会と、全国の方々との親睦を深めつつ意義ある研修が

できた事を感激致しております。

今年、平成十一年はめでたき天皇陛下の御在位十年を、更には神青協創立五十周年、将又、当神道青年会も時を同じく創立五十周年を迎えます。近年、青年会員の減少、活動力の低下が切実な問題となってきましたが、諸先輩方が今まで築いてこられたこの歴史ある会を益々の会員相互の強い結束と厚い信頼感とで奮い立たせていかなければと心新たに思う次第であります。

今後、青年会は五十周年に向けて益々多忙化してまいります。会員諸兄の益々の御健勝と更なる御発展を祈念し、御礼の言葉とさせていただきます。

副会長 葦津 健次郎
総務・広報委員会担当



副会長 という大役をおおせ付から二年が

経とうとしています。神青活動の右も左もわからない私が、何とか無事に任期を終え



ることが出来るのも、神祇のお力添えはもとより、種村会長を始め役員、会員の皆様のおかげと心から感謝いたしております。

この二年間、皆様にはご迷惑をおかけしたかと思いますが、またとない貴重な体験をさせていただきました、大変勉強になりました。

「神宮大麻頒布促進運動」では、宇治橋の中にあるとわからない、氏子さん等のあたたかさに触れることが出来、様々なことを考えさせられました。

日頃マスコミの記事を見ていると、神社界に対しては冷たいものばかりが目立ちます。ともすれば、私等は世間から四面楚歌状態かと不安に思うことさえあります。と

ころが各ご家庭をまわり、氏子さん等に「ありがとうございます、来年も是非お願いいたします」と言っていただと、頑張るぞ！という気持ちになりました。

社務の都合でもあまりお手伝い出来ませんでした。「お宮の子供会」も思い出がいっぱいです。

今年、三重県神道青年会創立五十周年というおめでたい年であり、六月には「伝えよう大和心」のテーマのもとに、記念式典も開催される予定です。



副会長 平野直裕
教化・研修委員会担当

私はこの二年間に、人生における大切な仲間を増やすことが出来たと思っています。この仲間等に深く感謝し御礼を申し上げ二年間のまとめとさせていただきます。

昨年、
神林副会長が愛知県のお社へ異動する事となりその後任として、副会長という大役をお引受けすることとなりました。



この事業を進めていきたいと考えております。最後にになりましたが、この一年、私の様な浅学非才な人間に副会長という大きな仕事を与えて頂き、色々な勉強をさせて頂いた、神青の皆様方に対し深く御礼と感謝を申し上げます。

卒業生名簿
当会入会以来、多年に亙り御活躍戴いた先輩方の卒業式(平成九年四月六日)に津市・茂波にて開催します。卒業される方々は左記の通りです。

- 御厨神社宮司 菅原 康知
- 深田神社禰宜 樋口比呂磨
- 北畠神社禰宜 橋本 正明
- 飯野神社禰宜 竹嶋 敏樹
- 猿田彦神社禰宜 川口 浩之
- 多度大社禰宜 瀬尾 好弘
- 耳常神社禰宜 秦 昌弘
- 神宮宮掌 中野 啓司
- 神宮宮掌 孫福 弘明
- 神宮宮掌 栢本 吉朗
- 神宮宮掌 土井 政数
- 神宮宮掌 八幡 崇経
- 神宮宮掌 花井 正浩

今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

「二年間の活動を振り返って」

総務・広報委員長 上坂省一



総務・広報委員長 上坂省一
報委員長を仰せ付かり不安の内にも何とか二年間終えることができたのも、先ずは委員皆様のご協力のおかげであります。ありがとうございます。

この二年間を振り返れば先輩方が如何に苦労されてきたのかを実感する日々のようにも思います。例えば、この「榊葉」。内容・構成・写真・色等どれを取っても「よし」と言える自信はありません。

初めに榊葉編集に取りかかった二年前、神宮文庫で第一号からの榊葉を見せて頂きました。初めは簡単なものでしたが、村田会長のころより今のように立派なものとなり、内容も充実してきましたように覚えております。

二五号・二十五年の会報は、三重神青活動の証人であり、我々の

活動の努力と汗を今後の会員に赤裸々に伝えてくれるものでしょう。そして創立五十周年を目前にし、会員同士の結束の大きな支えとなってくれることを期待しています。力不足でありました。このように重要な任期ではありましたが、いまとなつては、次期委員長に期待するばかりであります。二年間ありがとうございました。

渉外・福祉委員長 山路太三



渉外・福祉委員長 山路太三
平成九年四月より渉外福祉委員長として、会務を担当させていただきました。この二年間、委員会担当の福田副会長をはじめ、嶋津委員又会員のご協力を賜わり大過なく責務を全う出来ましたことは、誠に有難く心より厚く御礼申し上げます。

さて、この二年間、委員会担当の福田副会長をはじめ、嶋津委員又会員のご協力を賜わり大過なく責務を全う出来ましたことは、誠に有難く心より厚く御礼申し上げます。

渉外福祉委員会の活動といたしましては、会員相互の親睦を図る事がまず第一であります。六月の新職員交流会に始まり、忘年会・新年会等を開催し、会員相互の

教化・研修委員長 中野雅史



教化・研修委員長 中野雅史
この二年間教化研修委員会を担当させていただきます。

「和」をより一層深めることに務めました。又、親睦会については、会員の参加状況等を考慮しまして新年会と抱き合わせて、その翌日にゴルフコンペを行うこととしました。このときには、OBも多数参加し、盛会裏に幕を閉じました。次に福祉についてですが、多岐多様にわたる範囲の広さに新機軸を打ち出せないまま終わってしまったのが実状です。今後の会員諸兄の益々のご活躍に期待する次第です。

ともあれ、此れ等の活動を通じて、皆が打ち解け合い、気心を知り合い、青年会活動を円滑に運ぶ推進力となったことと思います。本日に二年間有り難うございました。

た。此の間種村会長、委員会担当の神林元副会長、平野現副会長を

始め役員会員諸兄からの暖かいご協力ご支援を頂き無事任務を終えました事を有難く心より感謝し御礼申し上げます。また、当委員会の活動運営には私の微力なところを委員各々からお力添え頂きました事重ねて感謝申し上げます。さて、この委員会の活動と致しましては志を同じにする者がまず一体となつて積極的に各行事に参加する事を第一とし、相互の連帯感を深め、大きな和を広げて参りました。夏休み恒例行事のお宮の子供会も二十二回目になり開催地の宮司様を始め関係者の皆様には大変お世話になりました。参加した子供等も夏休みの良き思い出になった事かと思えます。大麻旗布促進運動は西桑名ネオポリス新興住宅地に於て実施しました。年々うけられる家庭も増加して参りました。これからもこの運動を通じて教化活動の在り方を考え、一層活発な運動が展開できるよう努力したいと思います。

三重県神道青年会創立五十周年

テーマ 伝えよう大和心

「伝えよう大和心」というテーマを与えられると、昨今の日本が無視してきたもの・日本の麗しき伝統と文化・それを培ってきた精神を思わずにはおられない。しかし、「大和心とは何ぞや」と、自問すれば、各自いろいろな思いがあるであろう。それはご皇室である。全てを収斂していると言われる方もあろう。あるいは本居先生の「しき島のやまとごころを人とはば朝日ににほふう山さくら花」のようなものと答える方もあろう。

私たちは創立五十周年を迎える。先輩たちが伝えた大和心、そして私たちが今抱いている大和心、その一つ一つを明らかにし、同じ時代を生きる人々へ、さらにその子供達へ伝えようと、恐れも知らず掴み所のない巨大なテーマを掲げた。さあ今から各々が、各々の大和心を心に秘め、それを見つめ直す、新しい出発点に立とうではないか。諸君の大和心を見せてくれ！

創立五十周年記念講演会

一、神宮参拝と古殿地清掃奉仕（創立五十周年記念お宮の子供会）
一、記念式典の開催

平成十一年六月二十五日（金）

於 神宮会館

- ・記念奉告祭
- ・記念式典
- ・記念講演会 講師 市田ひろみ先生（服飾研究家）
- ・祝賀会
- 一、記念誌の発行 壺千部
- 一、事業品等の頒布

『創立のころ』

初代会長 宇仁一彦

(元 神宮禰宜)

三重県神道青年会が今年四十周年を迎えられるということは誠に御目出度いことで、心からお祝い申し上げます。創立の時代を顧み今日の活発な活動状況に驚きの目を見張っている次第です。昭和二十四年といえまだ戦後亞然自失の気分抜け切らぬ時代で、青年神職といっても県下に十人前後しかいなかったと思います。その頃中央から神道青年会結成の動きが伝わって、三重県でも神道青年会を作ろうということになったのだと記憶します。その当時の仲間は鈴鹿の佐野、勝田、伊賀では大西、朱雀、北勢では横山、分部、石垣、中勢では井後、川島、植松、南勢では宇治土公さんというような方々でした。創立総会があった記憶もなく、当時神社庁と関係の深かった佐野さんが何時の間にか私を会長にしましたよなことでした。それで年一度の中央の総会にも出席して総会議長にも押された次第でした。それは何故かという

と私が神宮に奉仕しているという唯一の事で、すなわち当時既に神宮の御遷宮奉仕の気運が動き始めており、昭和二十四年十一月三日文化の日に宇治橋渡始式があった式年遷宮奉賛会が結成され、同二十八日に第五十九回式年遷宮齋行されました。神宮の式年遷宮を期として全国の戦災神社の御復興の気運が澎湃として起るに至ったことは御承知のことです。この間に県神道青年会は宇治橋渡始式、お白石持、式年遷宮遷御の儀等の儀式に率先してお手伝の奉仕をして下さいました。

重役秘書としてのOLをスタートに、女優、美容師などを経て、現在は服飾評論家、市田美容室・市田アドブラン代表取締役社長、経済・業界団体に所属。短大講師、日本和装師会会長を務めるほか書家、画家としても活躍。講演会で日本中を駆けめぐるかたわら、民族衣装を求めて訪れるアフリカ、アジア、中南米の辺境の村々でも市田流のおつきあい術で交友関係を広げている。テレビCMの「お茶のおばさん」としても親しまれACC全日本CMフェスティバル賞を受賞。著書に『しゃっきりとしなはれ』（扶桑社）、『京の底力』（ネスコ/文芸春秋）、『かしこく生きる女学』（海竜社）等がある。



市田ひろみ先生
プロフィール

すれば神社庁はいくらでも金は出してあげると当時の庁長林先生や参事樋口先生は言ってお下さるのですが、その仕事を行うことが出来ない状態でした。今日のような活発な活動の始めは前の庁長宇治土公先生が会長をされた頃からではないでしょうか。私等はそういう渾沌の中にいて、やらなければいかんという気ばかり焦っていたという記憶が今も強くあり、ふり返ればそれが三重県神道青年会の胎動であったわけで、そこから今日の神道青年会が成長して来たのだと思ひ、今日の神道青年会の活動を心から嬉しく思うと共に、心ひそかに我等の時代に誇りを感じる次第です。今日のいよいよ重大な時期に皆さんのご健在を祈ります。この道のために青年でなければ出来ない活動を期待します。

(創立四十周年記念誌より転載)

初代会長 宇仁先輩は平成三年逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。先輩は神宮在職中おもに文教関係の部署にて活躍され神宮幼稚園園長もされておられました。また俳句がご趣味であったと聞き及んでおります。

神社新報より

神青協通信欄より

三重県においては三重県神道青年会（假稱）を結成すべく発起人会を去る八日神社廳において開催会則並に初年度事業等を検討、八月六、七両日に亘り結成総会を開くことになった

昭和二十四年七月二十五日

三重 盛大に発足

七月上旬来県内神道青年の糾合に努めて来たが、去る六、七両日神宮講堂に多数の参集を得、盛大な発会式を行ひ、会長に神宮権禰宜宇仁一彦氏、副会長に宇治土公貞幹氏を擁し事務所を当分の間神社廳に置くことになった

なほ発会式当日は神宮秋岡少宮司から情熱溢れる激励の辞があり一同を感激せしめた

昭和二十四年八月二十九日

戦後年表

昭和二十四年を中心

昭和二十年	十二月一日	神道指令
昭和二十一年	二月三日	神社本庁設立
昭和二十二年	十月一日	十一宮家皇籍離籍
昭和二十三年	十二月二三日	東京裁判判決の死刑執行
昭和二十四年	一月一日	日の丸掲揚の許可
	一月二六日	法隆寺金堂から出火
	二月二六日	壁画十二面全焼
	四月四日	第三次吉田内閣成立
	五月六日	北大西洋条約機構
	六月一日	ドイツ連邦共和国成立
	六月六日	神道青年全国協議会発足
	六月七日	三重県神道青年会結成
	八月七日	第一回東海五県神青協議会 於岐阜
	八月一七日	式年遷宮の延引奉謝祭
	九月二八日	中華人民共和国成立
	十月一日	ドイツ民主共和国成立
	十月七日	宇治橋渡始式
	十一月三日	湯川秀樹教授
	十一月二六日	ノーベル物理学賞授与
	十二月五日	パ・リーグ結成
昭和二十五年	六月二五日	セ・リーグ結成
昭和二十六年	四月十一日	朝鮮戦争
昭和二十六年	九月八日	マッカーサー解任
昭和二十七年	四月二八日	サンフランシスコ講和条約調印
	四月二八日	サンフランシスコ講和条約発効

定例総会

平成九年度定例総会が四月二十六日神社庁会議室にて種村会長以下役員、会員二十三名、来賓二名の出席にて開催された。

開会の辞に続き、神殿拝礼、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和、会長挨拶の後、来賓の片岡神社庁長・東氏青会長より祝辞を頂戴し、その後福田副会長を議長に選出し議事へと移った。まず会長より九年度会務報告、事務局より同会計決算報告、同会計決算差引額の処理案が提示され、夫々承認された。

続いて十年度活動方針案並びに事業計画案、副会長の補欠選任、



会費改定に係る会則の改正、十年度会計予算創立五十周年事業が夫々審議されて承認を受け、定例総会は滞りなく終了した。
(原記)

お宮の子供会

第二十二回を迎えた「お宮の子供会」は、八月二十四日、二十五日の両日県内各地より二十四名の子供達が参加し、種村会長以下会員の奉仕により員弁郡員弁町の金井神社(種村睦宮司)又、金井地区の公民館をお借りして開催された。

金井神社に集合した子供たちは、まず、御神前で正式参拝をし、二日間の諸行事の無事を祈って神秘的な面持ちで拝礼をした。

自己紹介の後、万古焼の蚊取りブタに思い思いに色付けをした。



きみの蚊取りブタは何色?

子供たちは、世界に一つしかない蚊取りブタを完成させ楽しい一時を過ごした。

夕食後、庭燎の集いでは、担当会員の指導のもとゲーム、花火大会を行い、和気藹々とした雰囲気のもと充実した一日を過ごした。

翌二十五日は、早朝より日尾神社(嶋田幸男宮司)の川原で禊をし、朝食後、養鱒場へ行き鱒釣りを体験し、めいめいが釣り上げた鱒を料理して昼食をとった。その後、大クワガタを探す宝探しゲームを行い皆、我先にと一所懸命でした。

夏休み最後の思い出となったお宮の子供会は、二日間の日程を無事終了し、帰る際に「来年も来るよ」とリーダーに話している子供の姿も見受けられた。

今回のお宮の子供会は、金井神社の氏子総代の方々、又、員弁郡支部の嶋田支部長様に多大なる御高配を賜りましたことをこの紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。
(中野哲記)



懇親会では、新入会員の自己紹介、芸披露など行われ、ボーリングの得点成績や新入会員の抱負を話題に、楽しい酒宴が繰り広げられた。
(嶋津記)

「新職員交流会」

さる六月十一日、神道青年会の新会員の入会を祝して「新職員交流会」が行われた。当日は午後三時から、津グランドボールにおいてボーリング大会が、続いて午前五時から懇親会が行われた。

ボーリング大会は、種村会長の始球式をもって開会し、はじめは緊張気味の新人会員も、次第に先輩会員たちと打ち解けて、終始和やかな雰囲気の中で、ゲームは進んだ。

ゲーム終了後は、会場を県神社庁に移して懇親会が行われた。種村会長の乾杯の発声により始まり、宴会が進む中、ボーリング大会の結果報告、表彰式が行われた。今年も新入会員は力及ばず、優勝以下の各賞は現役会員の手に渡った。

(嶋津記)

神宮大麻頒布促進運動

神宮大麻頒布促進運動として昨年の十二月七日(月) 県神青会員神宮会員総勢十四名が員弁郡員弁町の金井神社(種村睦宮司)に集合し、新興住宅地である西桑名ネオポリスにおいて執り行われた。

今回で八回目を迎える当地での大麻頒布活動はあいにくの曇空で小雨もばらついたものの参加者の中には経験者も多く速やかに活動が進められた。当日は白衣、白袴で二名を一組として五班に分かれ神宮大麻、広報紙、住宅地図を持って、一件ずつ隈無くまわった。新興住宅地ということもあり、留守の家庭が多かったが、在宅されている家庭では、神宮大麻の事や神



小雨の中、さあ出発

棚について親切に説明をし、一件でも多くうけて頂くよう申し上げた。又、神棚の無い家庭には簡易神棚を手に入「まず祀る心から」と真剣に説明してまわった。御札をうけられる家庭では、神棚拝詞を奏上し、丁寧に神棚に御札を納め、来年も御札をうけて頂くよう心を込めて奉仕した。毎年うけられる家庭の他、新しくうけられる家庭も年々増えてきた事は大変喜ばしい事である。
(中野雅記)

東海五県教化研修会

本年の「東海五県神道青年会連絡協議会及び教化研修会」は、九月二・三日の両日長野市ホテル国際二一を会場に九十六名の参加を得て開催された。三重県からは種村会長以下九名が参加。今回の研修会は二月に同地で開催される中央研修会のプレ研修会である。

初日 諏訪大社宮司 渡川謙一先生の講義を拝聴。「源 神青協の現在と未来」と題し戦後の神社界の動きから神青協誕生までを、お話しいただいた。その後一〇のテーブルに別れディスカッション活発な討論が行われた。



翌日はテーブルごとの意見発表と全体会(パネルディスカッション)と今まででない企画であったが、同じ仲間の考えや苦悩がわかり収穫は大きかった。会場ロビーにはインターネット体験コーナーもあり「意見交換の研修会」を象徴していた。

この二日間我が神青の頒布品をロビーに展示させていただいた。こちらの収穫も大きかった。もちろん初日の夜は長野の街に繰り出したのであるが、そこで榊林・河田両氏と合流。旧交を温めるといふ収穫もあった。
(上坂記)

会務報告

- 〔四月〕
 - 六日 神社総代会定例総会 一名奉仕 神宮会館
 - 九日 第一回役員会 三名出席 神社庁
 - 二二日 第五十回神青協定例総会 五名出席 神社本庁
 - 二六日 平成九年度定例総会 二三名出席 神社庁
- 〔五月〕
 - 一九日 第二回役員会 五名出席 神社庁
- 〔六月〕
 - 五日 東海五県連絡協議会 四名出席 長野県
 - 八〜二日 神青協海外宗教事情視察研修 二名参加 中国
 - 一日 第三回役員会 二名出席 神社庁
 - 新職員交流会 二三名参加 津グランドボール・神社庁
- 〔七月〕
 - 一〇日 第四回役員会 一名出席 神社庁
 - 一四日 神青協臨時総会 四名出席 神社本庁
- 〔八月〕
 - 四日 中央研修会実行委員会 四名出席 愛知県

神青協夏期セミナー受講報告

平成十年度夏期セミナーは、八月二十四・二十五日の両日、本社本庁において「青少年健全育成とその実践」を主題とし、全国から約百名の会員が集い開催された。初日の開講式の後、明星大学高橋史郎教授により、中教審の答申を踏まえつつ「現代社会と青少年」について講演いただいた。次に講義となり、「現代社会と宗教」と題し神社新報社葦津泰國社長が、また白梅学園短期大学林潔教授が「青少年の自立と社会性」と題し各々述べられた。



翌二十五日は、東京都精神医学研究所心理カウンセラーの三沢直子氏が「青少年を育むために」と題し講義され、最後に國學院大學上田賢治学長が「地域社会と神職」

と題して語られた。次世代を担う青少年の心の荒廃が憂慮される昨今、我々は何を実践すべきか。これを契機に、参加者一人一人が、青年神職としてのあり方を真剣に考えて行こうとする非常に有意義な二日間であった。いずれの講師からも、子供を変えするには大人が変わらねばならない、と口々に述べられ、そして地域社会における我々青年神職への期待も大きいことが自覚できるセミナーであった。

(森記)

親睦「護留布」

大凡、スポーツの動きを分離すれば「序破急」となる。始め静かに、段々と早く、最後に力を入れて勝負を決する。しかし、ゴルフはその反対である。ドライバーで力強く打ち出し、アイアンで刻み、グリーン上では心気を凝



らした繊細なタッチが求められる。漸々に力を抜いて、中心（カップ）に帰一するのである。これはまるで「鎮魂」の如くである。何故に「護留布」というのであろうか？

(山路記)

さて一月二十八日、神青親睦会が伊勢志摩カントリークラブで行われた。OBを含めて十四名の参加を得、小春日のなか各々穴を指した。池ポチャ・OBは当たり前前、「フォアー・フォアー」と叫ぶものの、「今のは素振り」と惚ける奴、手の五番、足の六番を繰り出す曲者と様々であったが、久しぶりに御球（霊か？）が鎮まった。結果は、優勝―西尾拓也、二位―種村睦、以下はどんぐりの背比べであった。

- 一〇日 第五回役員会
一二名出席 金井神社
二四〇三 第二二回お宮の子供会
一四名参加 金井神社
神青協夏期セミナー
三名参加 本社本庁
〈九月〉
二〇三 東海五県連絡協議会及び教化研修会
九名参加 長野県
二八日 創立五十周年準備委員会
一〇名出席 本社本庁
第六回役員会
一二名出席 本社本庁
二九日 中央研修会実行委員会
二名出席 長野県
〈一〇月〉
二日 敬神婦人連合会定例総会
一名奉仕 神宮会館
二〇三 初穂曳
四名参加 伊勢市内
二七日 三重県神社関係者大会
一名奉仕 神宮会館
第七回役員会
一〇名出席 伊勢市内
〈十一月〉
五〇六 聖寿奉祝の日奉告祭
四名参加 波照間島
〈十二月〉
五日 敢国神社例祭助成奉仕
四名奉仕 敢国神社
七日 神宮大麻頒布促進運動

神青協中央研修会

平成十一年二月二十三日、二十四日の両日、平成十年度神青協中央研修会が、長野県神道青年会担当で長野ホテル国際二一に於いて開催され、当県からは種村会長始め十二名が参加した。



今回の研修は主管が東海五県神道青年連絡協議会であった為、当県から参加の十二名は前日の二十二日から現地入りし、諸準備や受付等の助勢をすることとなった。研修は「源（みなもと）〜祭り」の心と信仰の原点」を主題として、信濃国一の宮諏訪大社に伝わる「式年造宮御柱大祭」通称「御柱

祭」を題材に進められ、渋川謙一諏訪大社宮司による基調講演の後、氏子として御柱祭にご奉仕された諏訪市木遣り保存会会長や曳行部長などの生のお話を、ビデオによる映像を交えて伺い、御柱祭への諏訪の人々の思い、そして人々の心に連綿と息づいている信仰心を痛いほど感じることが出来た。懇親会においても、御柱祭奉仕の木遣り、ラッパ隊、鼓笛隊が登場し、会場は御柱祭さながらの熱狂に包まれ、研修は御柱祭一色のうちに終了した。

(梅坂記)

三重県神道青年会 氏子青年協議会合同研修会 神宮神道青年会

三重県神道青年会、氏子青年協議会及び神宮神道青年会との合同の研修会が、去る三月五日、神宮司庁大会議室に於いて開催された。三会が一堂に集まる合同研修会は今回が初めてで、総勢五十九名が参加し、会場は満席であった。研修のテーマは「これからの遷宮について」で、神宮神青会員の八幡崇経宮掌（遷宮調査室勤務）が約一時間に亘り講演を行った。八幡宮掌は、資料に副ってまず



神宮の御鎮座について話を切り出し、天武天皇の創定、持統天皇の実施による遷宮制度の創設を説明された。次いで二十年一度の理由、御神山や御用材などの造宮に関すること、御装束神宝の種類や奉獻の歴史等を力説。さらに遷宮の祭祀や沿革について言及した後、典拠を示して、遷宮の意義の変遷を詳述された。最後に、国家の祭祀・神道・日本文化・現代の問題の四項目を挙げて、これからの遷宮をどうとらえ意味付けするかを示唆された。懇親会の席では、特に氏青と神宮神青との交流を深めることができ、実りある研修会であった。

(音羽記)

- 一二名奉仕 西桑名ネオポリス
九日 東海五県連絡協議会
三名出席 長野県
一二日 第八回役員会
一四名出席 松阪神社
忘年会 一九名出席 松阪市内
〈平成十一年一月〉
二七日 第九回役員会
一名出席 川梅
新年会 一六名出席 川梅
二八日 親睦会 二三名参加 磯部町内
〈二月〉
八日 中央研修会実行委員会
三名出席 長野県
九日 第一〇回役員会
四名出席 本社本庁
二〇三 神青協中央研修会
一二名参加 長野県
〈三月〉
五日 氏青・神宮神青・県神青合同研修会
氏青二二・神宮二一
一五名参加 神宮司庁他
東海五県連絡協議会
二名出席 長野県
一七日 三重県護国神社祭祀助成奉仕 五名奉仕
一九日 第一一回役員会
一二名出席 本社本庁
三〇日 創立五十周年準備委員会
三二日 『榊葉』二五号発行

中国訪問記

副会長 福田和人

平成十年六月、神青協海外宗事情視察研修に参加させて戴き、隣国、中華人民共和国北京市を訪問致しました。先ず北京師範大学との座談会を開催。この青年層との交流を通して、彼らの日本語の上手さ、又、国を愛する心、中国人としてのプライドを強く感じた次第であります。午後からの宗教関係者との座談会では、今回の研



宗教関係者との交流会

修の趣旨でもある慰霊顕彰の現況、靖國神社参拝等、各々の立場から意見を交換し合いました。やはり靖國神社問題においては、様々な意見が飛び交いましたが、我々青年神職が中国を訪問し、座談会の場を持った事に対し、彼らはとても感激の心を示してくれました。たった半日の意見交換でありましたが、今後いかに教訓を汲み取って行くか、隣国として仲良く付き合っていくかと言う点に話はずま

まって行きました。今後、様々な問題はありますが、この研修を通じて、少しでも相互理解を深められたのではないかと実感しております。

波照間島にて

理事 内保隆幸

十一月六日、神道青年全国協議会の創立五十周年記念事業として、沖縄県・波照間島で全国から会員九十人が参加し、奉告祭が斎行された。昭和四十七年、沖縄祖国復帰に全国の青年有志とともに同会の有志がこの島に日本全国の石を持ち寄って「波照間島の碑」を、また、先帝御在位六十年を記念して国旗日の丸をデザインし銘文を



聖寿奉祝の碑 周年奉告祭

埋め込んだ記念碑「聖寿奉祝の碑」を建立した。周年ごとにそれらの修復と奉告祭を実施してきている。本県から、種村会長、嵯峨井理事、原理事、自分の四名が参列した。嵯峨井理事は五日から参加し、修復作業にも加わった。波照間島は沖縄県で最南端に位置する島で石垣島から高速船で一時間かかった。碑のある岬からは太平洋が望まれ、遠くに来たことをしみじみと感じた。これらの碑が建てられた頃、青年神職は何を思い、建てることにより後世に何を伝えたいかか分に思いをはせながら、青年会の自分たちは何をすべきかを考えさせられた。

表紙説明

写真は神宮の宇治橋前の賑わいである。親子が暖かな日差しの中参拝に向かう長閑さ。戦後の混乱した日本にあってこのように平和で豊かな日本を誰が予想したのであるか。本号の表紙写真は現在のご社頭の賑わいを築かれてきた諸先輩方に感謝の意を込めている。

(写真撮影提供 篠原 龍)

編集後記

本会は、半世紀の歴史を越え、新しい目標を掲げた。本会報は今回で二五号を数え、この会の四半世紀の歴史を刻み込んできた。そして今回三人の有望な若手会員から忌憚のないご意見を頂いた。「志」は確かに未来へと受け継がれていると実感する。

会報「榊 葉」

第25号

平成11年3月31日
 発行者 種村 睦
 編集 総務広報委員会
 発行所 津市鳥居町210-2
 三重県神社庁内
 三重県神道青年会